



城崎温泉のお祭りの
詳細はコチラまで!
←QRコードをスキャン

城崎温泉 ~みんなでいかあで! まちのお祭り~

祭めぐらなマップ



4/23-24 温泉祭り(開山忌)
温泉寺・町内各所

城崎温泉最古の祭礼である温泉祭りは正式名称を開山忌(かいざんぎ)といいます。城崎温泉守護の寺、温泉寺の開祖で城崎温泉の開祖でもある道智上人に感謝するお祭りであり、町民挙げての大祭です。温泉にも感謝し、4/24は法要が温泉寺本堂にて執行され、秘仏本尊十一面観音のご開扉も行われます。23・24日を通じて町民が知恵を絞って行うイベントは温泉祭りに華を添えてきました。2日間の祭礼を通して地元民のみならず観光客の安全も願い、温泉街を挙げての感謝祭が温泉祭りです。

6月7日 庚申夏祭り
庚申の日
極楽寺

こうしんなつまつり

庚申とは「かのえさる」の日の事で、年に6回その日があります。一般的にこの日は、人の身体から瘴いでいる間に虫が天に登り、その人の行状を天の神に告げ口する事から、その夜は寝ないで過ごす事により、お祭りのように一夜を過ごしていたようです。城崎の庚申さんは、熱病封じに霊感ありと伝えられ、おまじないの糸が置かれています。その糸を男性は左足首、女性は右足首に巻くと、効能があるとされています。毎年6月・7月の間の「かのえさる」の日に夏祭りを行っています。

7/15 妙見大祭
本住寺

みょうけんたいさい

妙見さんは、「妙見北辰大菩薩」と呼ばれ、北極星を神さまとして祀ったものです。北極星は常に北を指していることから成人(海上運行)の指針として仰ぎ見られ、人生の道を開く開運の守護神として深く信仰されています。お祭り当日は城崎の夏の風物詩にもなっている「流しうどん」等が喜多町内会の方により行われています。子ども達の興味をそそり、多くの町民が集まり触れ合う場となっています。

7/31 川下祭り
弁天山

かわすまつり

安芸の宮島の分祀(本社と同じ神様を別の社を設けてお祀りすること)で市杵島姫命(イチキシマヒメ)をお祀りしています。悪いものを川に流すという意味のお祭りで、川の downstream 地域(すそ)で行われます。(昔は弁天山が一番川下だったということです!) 現在弁天山の階段を埋め尽くす程の人気を集める城崎温泉随一の福引は大正時代の末に始まったといわれています。

5/27 三柱荒神祭
御所町(三木屋前)

さんぼうこうしんさい

708年より前、四所神社が建つ以前の大深村の氏神様であったと伝えられています。大正時代までは、6月27日に開催され夏祭りの先駆けとされてきましたが、大正に入ってから1か月早められたようです。「火」と「カマド」の神様のお祭りで、元々は土地鎮めの「地神」が起源といわれています。小さいけれど大切なお社に祀られています。

7/7 清玉稲荷夏祭り
元町

きよたまいなつまつり

清玉稲荷社は1856年に京都伏見の本社より勧請せられました。五穀豊穡と商売繁盛を願う守護神として長い間崇敬を集めています。町の中心にありながら裏通りでひっそりと佇んでいるお社のお祭りです。

7/16 西谷不動尊夏祭り
湯の元町

にしだにぶどうそんなつまつり

昔、地区の老人さんが、毎月16日に不動尊像と団扇を囲んで「不動講(16日講)」と言うお楽しみ会をされていました。不動尊像は夢に出た場所を掘ったら出てきたといういわれがあるお不動さんです。昭和55年に城崎町から寄付を頂いて不動尊本堂などを建て直した事から町の人たちの信仰とふれあいを目的にお祭りが始まったとされます。

8/4 城崎温泉ふるさと祭り
町内各所

※変動あり

昭和51年から始まり平成28年で40周年を迎えました。夏のひとときを町民と観光客が一体となり共に楽しめる催しを目的として開催されています。町民手作りの屋台を開いたり、商工会青年部が中心となって城崎温泉の夏の賑わいを作っています。これからも子どもたちが、町民が、観光客が喜んでくれるお祭りになれるようにしていきます。

6月 第1日曜日 鼻かけ地蔵祭り
楽々浦(ささうら)

6月 第1日曜日

日本昔話にも登場する物語のある有名なお地蔵さんのお祭りです。「願成就(いちがんじょうじゅ)」一つのお願いごとをすくと叶えて下さると言い伝えのあるお地蔵様です。当日は柴燈大護摩供養を中心に地域の方の催しがあります。一時期途絶えていたが昭和52年に復活を果たし今に至っています。

7/8 薬師祭り
温泉寺

やくしまつり

温泉祭りに並び城崎温泉最古級のお祭りです。城崎温泉は元来湯治場であり、薬師如来は古来、医者の王たる仏様として信仰を集めてきました。温泉寺の本尊十一面観音様が城崎温泉全体の守護仏であるならば、薬師堂に祭られる薬師如来が温泉そのものの守護仏であると言えるでしょう。薬師如来に感謝をする、つまり温泉の恵みに感謝するお祭りといえます。お参りし、全国にも珍しいお札と言われる浴室安全のお札を授かって自宅の浴室(脱衣室)に貼ります。

7/18 鬼子母善神祭
柳町

きしぼんじんさい

「火伏せの神」である京都本隆寺の鬼子母神を祀っています。大正14年に起きた北但大震災直後よりお祭りを開催して大火事による惨禍が起きないようにという願いとまた子ども達が健康で暮らしているようにという「子ども達の神様」の両方を意味しています。また柳町地区のお祭りは「鬼子母神」「延命地蔵」「桃源水の井戸」が三位一体となっています。

8/5 行者祭り
温泉寺

ぎょうじゃまつり

行者祭りは役行者をお祭りする為に行われています。昔から城崎の夏祭りの締めくくりと言われていました。修験道の開祖であり仏教史上の超人である役の小角(えんのおすめ)をお祀りして大柴燈護摩供養を行います。野外で行う大規模な護摩法要は城崎温泉唯一であり、必ずお参りしたいところです。火の持つ神聖さに触れることによって無病息災、家内安全、商売繁盛の意味があります。

6/17 秋葉神社例大祭
元町

あきはじんじゃれたいさい

祭神は秋葉大権現、火防・火伏せの神です。お参りすることで、火災から守っていただくご加護を頂戴します。必ずお札を授かって、我が家の台所に貼りましょう。城崎温泉夏祭りシリーズのトップバッターでもあり、だんじり太鼓が温泉街に鳴り響きます。

7/10 若上臈稲荷夏祭り
城崎小学校

わかじょうろういなつまつり

若上臈稲荷は、その普雅成親王が罪を犯し高屋(豊岡)に送られ、都で皇子を慕っておられた妃が従者を連れて馬車に入られたが旅の途中で亡くなったため、その霊をなぐさめるために建てられたといわれています。名前の由来は、身分の高い婦人のごとを「上臈」と呼び、田の神としての「稲荷」と一緒に祀られたためこのような名前になりました。城崎小学校の一角にひっそりと佇み、食物の神とされ、狐を神使としています。

7/24 愛宕祭り
南上町(文芸館周辺)

あたごなつまつり

現在は文芸館周辺で行っていますが、かつては愛宕会館で開催していました。起源については不明ですが文化年間(1804~1818)から始めているようです。火伏せの神を祀り当日は防火のお札を配り、また、くじ引きがあります。200年にわたり町民から親しまれている縁日とされ、京都の愛宕神社が総本社です。

10/14-15 四所神社秋季大祭
町内各所

しよじんじゅうきゅうたいさい

江戸時代中期の享保9年に四所神社神輿が完成しました。明和元年に上部の神輿台が完成、翌年に下部の大だんじりが完成し現在のだんじり祭りの原形が整ったと考えられています。15日正午に神輿が御出、外湯を初め、町内を巡幸します。本来、地域の「カミ」を祀る厳粛な儀式として五穀豊穡を願ったと考えられますが、現在では地域の人が若者男女問わず大変楽しみにしており、城崎温泉最大のお祭りとして多くの目に愛されています。